

受付番号

2025-14

許可番号

大歯医倫 第 111404 号

研究課題名

口腔外科入院患者における NRS-2002 を用いた栄養リスクスクリーニングの実態とその臨床的意義

研究責任者

楠 博

申請者

楠 博

研究終了日

2026 年 3 月 31 日

所 属

内科学講座

所 属

内科学講座

職 名

准教授

職 名

准教授

申請の概要

本研究は、A 病院の栄養サポートチーム（NST）が主導して行う後ろ向き観察研究であり、歯科口腔外科に入院した患者における栄養リスクスクリーニング（Nutritional Risk Screening 2002 : NRS2002）の有用性を明らかにすることを目的とする。対象は、2024 年 8 月から 2025 年 3 月の期間に A 病院口腔外科に入院し、入院時に NRS2002 スクリーニングを受けた約 700 名の患者とする。NRS2002 スコアは、栄養状態や全身状態をもとにリスクを評価する国際的に標準化されたツールであり、本研究ではスコアと患者の臨床情報との関連を多角的に検討する。

収集する情報は、診療録等に基づき、年齢、性別、入院目的、身長、体重、BMI、在院日数、NRS2002 スコア等とする。特に NRS2002 スコアが 3 点以上と判定された患者に焦点を当て、病態や入院経過などの臨床的特徴を詳細に分析する。栄養リスクと在院日数や入院目的との関連性を明らかにすることで、周術期における栄養介入の必要性を示すエビデンスを得ることを目指す。

データの解析では、NRS2002 スコアと各臨床指標との統計学的関連性を評価する。さらに、年齢、BMI、在院日数などの変数については、ヒストグラムを作成して分布を可視化する。加えて、疾患別や性別などを区分した積み上げ棒グラフ（スタックドバー）を用いて、各群の内訳や傾向を比較、検討する。

本研究を担当する NST は、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師など多職種で構成されており、それぞれが専門的立場から研究に参画する。例えば、歯科医師は入院目的や術式との関連を分析し、栄養士は栄養状態の評価と解釈を行い、看護師は入院時のスクリーニング実施や記録の解釈に貢献する。本研究は診療情報を用いた後ろ向き研究であり、新たな介入や追加検査は一切行わず、対象患者への直接的影響はない。なお、NRS2002 を用いた栄養スクリーニングに関する研究は、消化器外科領域等で報告されているが、歯科口腔外科領域では極めて少ない。本研究は、その学術的ギャップを埋める意義をもち、将来的な栄養管理の質向上や NST 介入の基準構築に資することが期待される。